平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

学校名（ふりがな）	私立常磐会短期大学付属泉丘幼稚園（しりつときわかいたんきだいがくふぞくいずみがおかようちえん）

園 長 名：下村　冨美枝
所 在 地：大阪府堺市南区三原台３－３－１
電話番号：072-291-0393

思考力の芽生えを養う教育をおこなうための教育課程についての研究

《研究主題》

身近な環境とかかわる中で、思考力の芽生えを培う
―友達とのかかわりの中で様々な考えを生み出す
子どもを目指して―

【研究の要点】

○今までの知的好奇心の育ちをさらに深めるため、幼児の身近に存在する物や文化なども含めた、身の回りにある環境の中から、思考力の芽生えを培う指導の在り方を探っていく。

○幼児の普段の生活の中で繰り広げられる遊び全般から、「思考力の芽生え」の姿を捉え、環境の構成や教師の援助を探ってきた。

特に、幼児の言葉やしぐさの中に見られる思考力の育ちを分析するようにしてきた。

下記の２つの柱を決め、事例を通して、その育ちの過程を捉えてきた。

（柱１）遊びの中で「ものとかかわる活動を通して、見つける・試す・くり返す」などの子どもの姿をとらえ、思考力の芽生えを探る。

（柱２）友達と互いに言葉をやりとりする中で、友達の気づきや考えに触れ、新しい考えを生み出している場面をとらえ、思考力の芽生えを探る。

○思考力の芽生えを養うために大切にすることは

３歳児―様々なものとのかかわりの中で、不思議に思ったり、おもしろさを感じたりする。

４歳児―友達とのかかわりの中で、いろいろな考えや思いに気付き、自分の遊びに取り入れようとする。

５歳児―自分なりに予想をつけて、材料を選んだり試行錯誤をくり返したりすることを楽しむ。

○そのための教師の援助・環境の構成は

３歳児―手触りのよいもの、可塑性のあるものなど様々な素材との触れ合いを楽しませる。

４歳児―幼児の気付きやおもしろさを友達同士で共感できるように仲立ちをする。

５歳児―幼児の考えや予想を受け止め、教師も共に考えたり、友達と一緒に考えたり実現したりできるような環境構成を工夫したりして、達成感や充実感を味わわせる。

○幼児期には、友達とのかかわりと多くの遊びを体験し、その遊びが繋がるような場で、育つことが思考力を育むと考える。

○こうした捉えを通して、教師は、幼児の発達の姿に見通しをもつことができ、幼児の思いに添いながら、環境構成の工夫、タイムリーな援助などについてさらに深く考える機会になった。

○学年を超えて遊びを共有することにより、本園独自の遊びの継承が見られ、その遊びの伝承の中に幼児の工夫が見られた。この工夫には思考力が働いていると考える。本園独自の遊び（つながる遊び）を本園の文化として今後も大切にしていきたい。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

・ 恵まれた自然の中で遊ぶ子どもの姿から「見つける、試す、くり返す」の具体的な操作から生まれる知的好奇心の育ちに焦点を当て、研究を進めてきた。

・ 振興住宅地に立地し、核家族が多いため、地域の文化や自然に関わる活動を保育の中に取り入れている。

・ 認定こども園として、幼稚園と保育園との連携のもと異年齢の関わりを大切にしている。

２　学校の概要　（平成22年4月5日現在）

		３歳児	４歳児	５歳児	計
学級数		３	３	３	９
園児数	男	４１	３７	３９	１１７
	女	３３	３７	４７	１１７
	計	７４	７４	８６	２３４

教員数　１３　名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

（1）研究主題

身近な環境とかかわる中で、思考力の芽生えを培う
―友達とのかかわりの中で様々な考えを生み出す
子どもを目指して―

（2）研究主題設定の理由

・ 今までの知的好奇心の育ちをさらに深めるため、幼児の身近に存在する物や文化なども含めた、身の回りにある環境の中から、思考力の芽生えを培う指導の在り方を探る。

・　友達との関わりの中で､友達の気づきや考えに触れ、新しい考えを生み出す過程を、環境の構成や教師の援助から考察していく。

・　日々の保育の中から、思考力の芽生えにつながる事例をもちより、共通の視点を決めて分析し、教育課程の改善に活かしたい。

(3)　２年間の主な取組

平成21年度	【研究を進めるにあたって】 ○　教職員による研究計画の概要を作成する。 ○　園内研修を実施する。 ○　日常の保育実践より事例を出す。（視点を決めて） ○　各年齢における研究保育に実施と研究討議の中で研究主題の共有化を進める。 ○　外部講師招聘―教育課程と研究主題について講議を受ける。 ○　実践事例のまとめと一年次中間報告書の作成。 ○　２年次に向けての研究課題を決定し､研究方法を探る。
平成22年度	○　教育課程に基づく各年齢別研究保育の実施と研究討議。 ・　思考力の芽生えを年齢の発達に添って検証する。 ・　子どもの言葉やしぐさに見られる思考力の育ちを分析する。 ○　教育課程に基づく事例を各学期ごとに提出､研究討議。 ・　思考力の芽生えにつながる事例を子どもたちの遊びの中から共通の視点で取り上げ､育ちの過程を検討する。 ○　公開保育研究会の開催 ○　研究成果のまとめと最終報告の作成

２　教育課程の編成

○　下線部の部分を「思考力の芽生え」を考慮して再考した。《別紙》

３　研究内容及び具体的な研究活動

柱(1)

遊びの中で「もの」とかかわる活動を通して、見つける・試す・くり返すなどの子どもの姿をとらえ､思考力の芽生えを探る。

★幼児の思いに共感できる場をつくって

◎３歳児「ちょっと、まってや、まってや」

幼児が、砂場にホースの水を引き込んで、水たまりをつくったり、水の中に手を入れたり、遊具を浮かべたりして遊んでいた。

そこで、教師がホースを砂場の上の木にかけ、上から水が落ちてくるようにしてみた。すると、今までと違った水の流れに驚いたＫ児がバケツで水を集めようとし始めた。なかなかうまく入らない水に向かって「ちょっとまってや、ちょっとまってや」とつぶやきながら、揺れるホースの動きに合わせて体を揺らしながら何とか水を入れようと必死になっている。そして、バケツにうまく入った時の「ババババ・・・」という音に、周りにいた幼児も気付き、Ｋ児のようにホースの動きに合わせて体を揺らしたり、水が入りそうな場所に動いたりして集めようとした。

《分析：幼児の思考力の芽生えの捉え》

今までと違った水の出方に興味をもった幼児は、自分たちで水の集め方を探し始めた。「落ちてくる水をバケツに入れたい」という思いから、体の動きやバケツの位置をホースの動きに合わせようと考えている。

○考察

ここでは教師の意図的な環境の工夫に幼児が興味を示し、今までバケツで水を汲んでいた体験を生かし、上から流れてくる水も何とかして集めたいと偶発的に生まれた遊びの中で、幼児は思考力を働かせることとなった。

教師は、幼児が無意識に感じ取っている経験を生かし、次の楽しい遊びへとつながる環境の工夫をしていくことが重要である。

★問題解決に向け、考え、工夫する過程を捉えて

５歳児　「こどもまつりで、びっくりさせる恐竜迷路を作りたい」

運動会で存分に恐竜の表現遊びを楽しんできた幼児から、「こどもまつりで迷路を作りたい」「恐竜が出てきたらおもしろいよ」という思いが出てきた。そこで、「こどもまつり」で恐竜の迷路とトンネルを作ることになった。

迷路作りの幼児は「段ボールがいる」「驚かす道と安全な道を作る」などのアイディアを出し、友達と一緒に段ボールを立てたり、支えたりして、迷路の壁を作り始めた。しかし、「何で段ボール立たへんのやろう」「折り目がついてうまく立たない」と困った状況が出てきた。幼児は、段ボールのふたの部分を折り曲げて床に貼ったり、段ボールの折り目を斜めにしたりして、何とか立たせようとしていた。トンネル作りの幼児は、「レインボートンネルにしたい」というイメージをもち、トンネルの土台としてフラフープを使ったり、様々な色のカラーポリ袋を貼り合わせたりした。

出来上がると、迷路のチケットを売る場所、店の看板を置く場所、異年齢児が来たときの驚かし方などを話し合って進める姿が見られた。

《分析：幼児の思考力の芽生えの捉え》

- 今まで体験したことを基に、新しい遊び方を思いついたり、遊び方を言葉に出すことで友達とイメージを共有しようとしたりした。
- 迷路やトンネルのイメージを実現するために具体的に必要な材料を選ぼうとしている。
- 平面の段ボールを立体にする方法を考えたり試したり、考えたことを友達と分担して実現しようとしたりしている。

○考察

- 「おもしろそう」「やってみたいな」という気持ちをもった遊びだからこそ、幼児は様々なことを考え、試し、会得していく。

  そのためには、幼児の考えた遊びのイメージが実現でき、より充実感を味わえるよう、関心をもったことにじっくりとかかわれる時間や場、材料などの確保が必要である。
- 幼児自身が納得して遊びを進め、遊びそのものも楽しくなってくると、自分たちだけでなく異年齢児に対しても楽しませたいという思いが芽生え、さらに工夫しようとする。
- 今までの経験に、新しい経験を積み重ねることにより、幼児の充実感は増してくる。

○成果と課題

幼児は主体的に取り組むことで、生き生きと活動するが、教師は幼児の遊びのイメージの実現に向けて、必要に応じた援助や助言をし、意欲を継続させることが大切である。

幼児同士のイメージの共有、友達との言葉のやりとり・試行錯誤のタイミングに応じた教師の援助が大切ではないだろうか。

柱(2)

友達と互いに言葉をやり取りする中で、友達の気づきや考えに触れ、新しい考えを生み出している場面をとらえ、思考力の芽生えを探る。

★幼児の好奇心を高める教材を用意して

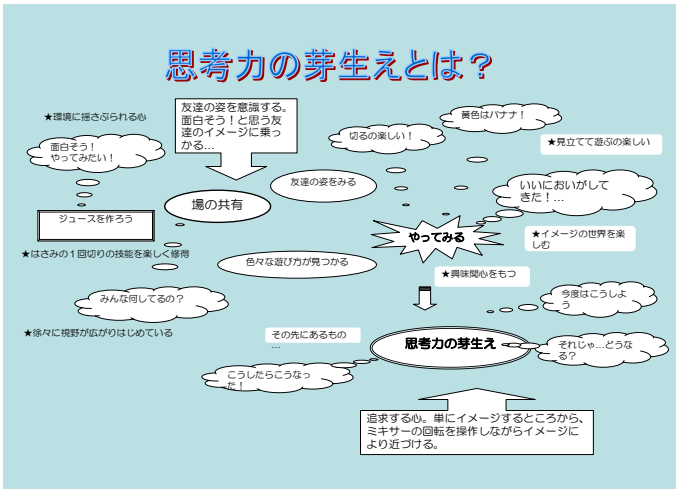
◎4歳児「ジュースやさん」

はさみを使った紙切り遊びで、どんどん細かく切っていく中で、幼児はその紙をジュースに見立てて遊び出した。

教師は、翌日、よりジュースにして楽しめないかと考え、ミキサーを出しておいた。すると、幼児は目を輝かせ、教師と共にミキサーを回転させた。その様子に集まってきた幼児が、紙の色からいろいろなジュースのイメージをもって作り出した。そこで教師が香りのエッセンスを少し加え、さらに本物らしくしたことから、幼児は喜んでいろいろなジュースを作り出した。その過程で、幼児は紙の量や色合いによってできるジュースの違いやミキサーの回り具合にも興味をもっていった。

《分析：幼児の思考力の捉え》

遊びの中でのイメージの共有化から、本物に近いものが作れた喜びを体感できた。ミキサーなどの実物の生活用品も使って、さらに不思議だな、面白そう、やってみたい、という思考力の芽生えを育てるうえで一役かっていた。



★思いやイメージを実現し、満足感を得る過程での思考力

◎昨年度の５歳児「そらぐみマート」の様子

遠足で「キッズプラザ」という遊びの広場で、刺激を受けた「そら組」の幼児が、身近にある遊具を並べてお店屋さんを始めた。その様子を見て、教師が、よりお店らしくなるようにと、レジや文字スタンプを用意すると、それらを自分の店に持ちこんで遊び出した。自分たちでお金やレシート、品物など、開店に必要な物を話し合って工夫しながら作り、「そらぐみマート」と名付けて準備を整えた。さらには、たくさんお客さんにきてもらおうと、友達と分担して、ちらし、看板、袋、案内の矢印等も作り、異年齢の友達への呼び込みも始まった。

今年度の５歳児

「新装開店　やまぐみマート」

～幼児に受け継がれる遊び～

１年前、上記の「そらぐみマート」にお客さんになって参加し、買い物ごっこを楽しんだ幼児が進級し、今度は自分たちで「やまぐみマート」を開店した。

今年の幼児は、赤い紙粘土を丸め、「トマト」をたくさん作った。一人の幼児が、そのトマトを使って「トマト弁当」と言った言葉の響きが気に入ったのか、次々に、そのイメージの世界が友達にも広がっていった。そのイメージを教師も受け止め、弁当箱になりそうなプラスティックの容器を用意すると、本物のような「トマト弁当」が実現した。

幼児は、それぞれ売り手、宣伝に行く子などの役割を分担して店を開いた。園児全員に昨年の「そらぐみマート」と同様、「やまぐみマート」の名で親しまれ、買い物客で賑わった。

《分析：幼児の思考力の芽生えの捉え》

去年の楽しかった思いが鮮明に残っていたのであろう。同じ場所に遠足に行った後、時期を同じくして、幼児はお店屋さんの遊びを始めた。

自分たちが昨年参加し、楽しかった体験が、この遊びにつながっていると感じた。

昨年の「そらぐみマート」の品物に、さらに自分たち独自の品物も作り出しているところに、模倣だけにとどまらず、思考力を働かせていることが分かる。

○考察

・　幼稚園においては、３・４歳児は５歳児の遊びへあこがれをもち、同じようにしてみたいという思いをもつ。その気持ちが進級の喜びにつながり、同じような遊びを繰り広げる。この事例から、本園において、このお店ごっこが、５歳児から受け継がれていく遊びになっていることを感じる。
・　幼児が共通の体験をすることで、遊びに必要なものを考える際にイメージも共有しやすくなる。
・　作るものが明確になると、役割分担をしたり友達同士の言葉のやりとりが増えて、具体的なアイディアが出てきたりして思考力が増すと考えられる。

○成果と課題

・　教師が幼児の興味や関心に適切に応じた環境を整えたことが刺激となり、今までの遊びの体験を活かし、幼児自身が考え、遊びを発展させたと考える。
・　遊びを進める中では、自分の思いにこだわることが必要ではあるが、友達の言葉に耳を傾けて納得できれば取り入れるといったことも、思考力を深める上で必要なことだと思われる。

４　研究の成果と課題

◎研究の成果

この２年間の研究を通して、幼児の普段の生活の中で繰り広げられる遊び全般から、「思考力の芽生え」の姿を捉え、環境の構成や教師の援助を探ってきた。

特に、幼児の言葉やしぐさの中に見られる思考力の育ちを分析するようにしてきた。そして、事例を通して育ちの過程を捉えてきた。（次ページの図）

○思考力の芽生えを養うために大切にすることは

３歳児―様々なものとのかかわりの中で、不思議に思ったり、おもしろさを感じたりする。

４歳児―友達とのかかわりの中で、いろいろな考えや思いに気付き、自分の遊びに取り入れようとする。

５歳児―自分なりに予想をつけて、材料を選んだり思考錯誤をくり返したりすることを楽しむ。

○そのための教師の援助・環境の構成は

３歳児―手触りのよいもの、可塑性のあるものなど様々な素材との触れ合いを楽しませる。

４歳児―幼児の気付きやおもしろさを友達同士で共感できるように仲立ちをする。

５歳児―幼児の考えや予想を受け止め、教師も共に考えたり、友達と一緒に考えたり実現したりできるような環境構成を工夫したりして、達成感や充実感を味わわせる。

こうした捉えを通して、教師は、幼児の発達の姿に見通しをもつことができ、幼児の思いに添いながら、環境構成の工夫、タイムリーな援助などについてさらに深く考える機会になった。

また、学年を超えて遊びを共有することにより、本園独自の遊びの継承が見られ、その遊びの伝承の中に幼児の工夫が見られた。この工夫には思考力が働いていると考える。本園独自の遊び（つながる遊び）を本園の文化として今後も大切にしていきたい。

〔10月20日　公開保育アンケートより〕

○　“思考力の芽生え”は、柔軟な心をもっている幼児期にこそ養うよい機会である。

○　体験をすること（興味をもち、やってみたいと思う気持ちを育むこと）で思考力が生まれるので、日々の保育の環境構成が大切である。

○　普段の保育の中での「小さな気付き」「思考力＝科学的なものだけではなく、考える力、不思議に思う気持ち」を改めて発見した。

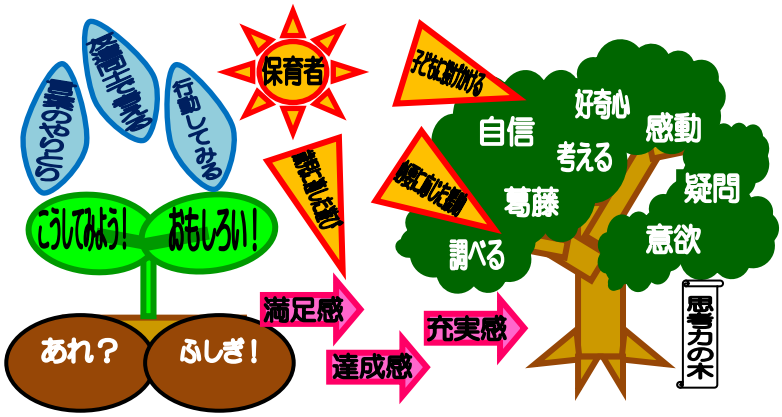
○　あるものを使って製作をしたり、思考力をしっかり使ってチャレンジしたり、困ったことに対して自分で考えたり、友達と力を合わせていた。

○　子どもの安定性も高く、園全体で共有している保育者の意図性がよくわかり、いいと思う。子どもの発案と保育者の提案によるもののバランス（思考力を支える人間関係・事物に関わる意欲等）の構築が適切に行われる計画が重要である。

○　幼稚園と保育所が一体化していく中で、これからの子どもたちが、よい方向に変わっていくために必要なのが思考力。前向きに取り組んでいく必要がある。

○　思考力を培うためには、時間、空間、子どもたちに関わる人間関係の安定が大切である。

○　日常的で継続的な取り組み、体験の積み重ね、長期的な計画が重要である。思考力とは、遊びに熱中すること、自然に触れることで養われる。



◎今後の課題

この研究を機会に、今年度１０月に、大阪府私立幼稚園全園に呼びかけて、公開保育を開催した。参加者から、研究主題「思考力の芽生えを養う教育」に関する事柄について、次のような意見や感想を得た。

こうした公開保育を行い、参加者の声も聞く中で、幼児期に思考力の芽生えを養う重要性を改めて感じることができた。

今後も、幼児の言葉やしぐさなどに潜む幼児のものの見方や考え方の特性を理解し、そのタイミングを逃さず教師も幼児の不思議さや発見の喜び、試行錯誤する過程に寄り添い、共に考えたり、試したりできるような環境の構成や教師の具体的な援助を考えていきたい。

また、幼児は、友達とのかかわりの中で、自分とは違う友達の考えに気付いたり、言葉でやりとりしたりする中で、さらに考える楽しさを感じたり、考えを確かめたり広げたりもする。こうした友達の中で、自分の思ったことを伝えたり、相手の考えを受け入れたりできる関係づくりが必要である。

研究を通して分かってきた発達の見通しを教育課程へ位置付け、思考力の芽生えを培う指導の在り方をさらに深めていきたい。

2　教育課程の編成

	教育課程			
園目標	温かく安らぐ生活の中で、豊かな感情、好奇心、思考力の基礎を培う。			
教育方針	○子ども一人一人をよく理解し、子どもの気持ちを受け止め、個性を尊重し、恵まれた環境の中で心身の健康な発達を助長する。 ○楽しい園生活の中で、幼稚園教育要領に印されている５領域を総合的に取り扱い、経験や活動を望ましい方向へ導き家庭・地域との連携を密にして、いきとどいた指導を行う。			
地域の環境(実態)	三原台泉北ニュータウンの中にあり、静かな住宅地である。また、近くには広い公園があるので、四季ごとによく利用し、生き物や木々や草花の様子などを通して、四季の移り変わりに触れていける環境にある。最近、住宅の建替えに伴ない若い世代の入居も始まるので、保育所を希望する家庭が増え、幼稚園の施設の中に保育園の機能が必要となり、０歳～就学前までの一貫した保育・教育が、求められるので本園が地域に果たす役割が大きい。			
子どもの状態	○園児は保護者による送迎を原則としているが、保育者による徒歩（15～20 分）の送迎支援も行っている。園児のうちわけは、0～2 歳児は 40 名、3～5 歳児は 234 名を収容し、全園児６日制、幼稚園は、第２、第４土曜日は休日で、５日制となる。 ○兄弟姉妹の中で育っている子どもと、ひとりっ子の割合は全体の四分の一ぐらいである。園児は、明るく、元気で、集中して遊ぶ子どもが多い。 ○母親が就労する家庭が多くなり、長時間の保育を利用する園児が増えてきている。			
年齢	３歳児（進級）	３歳児（新入）	４歳児	５歳児
目標	幼稚園の環境に慣れ、気の合う友達の中で、自分の思いを出しながら、楽しく過ごすようにする。	幼稚園の環境に慣れ、喜んで登園し、自分で好きな遊びを見つけて楽しく過ごすようにする。	（進級児）友達と思いを伝え合って遊ぶ楽しさを味わう。 （新入児）自分の好きな遊びを見つけて、友達と遊ぶ楽しさを味わう。	友達と心や力をあわせて生活したり、遊びに熱中したりして、達成感や充実感を味わう。
内容	○ 友だちと触れ合いながら、好きな遊びを楽しみ、幼稚園生活に慣れる。 ○ 友だちと遊び、楽しさを味わう。 ○ 身近な物や素材とかかわり、不思議さやおもしろさを感じる。	○保育者や友達と話したり、触れ合ったりして親しみを持つ。 ○体を十分動かして、好きな遊びを楽しむ。 ○身近な物や素材とかかわり、不思議さやおもしろさを感じる。	○自分から興味を持って好きな遊びを楽しむ。 ○友達と思いを出し合い、いろいろな考えや思いに気付き、自分の遊びに取り入れようとする。	○友達と考えを出し合ったり、受け入れたりしながら、遊びを進める楽しさを味わう。 ○自分なりに予想をつけたり、試行錯誤を繰り返したりして遊ぶ楽しさを感じる。 ○自信をもっていろいろな活動に意欲的に取り組み、幼稚園生活を楽しむ。

平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

学校名（ふりがな）	群馬大学教育学部附属幼稚園（ぐんまだいがくきょういくがくぶふぞくようちえん）

園 長 名：藤本　宗利

所 在 地：群馬県前橋市若宮町二丁目５－３

電話番号：027-231-3170

思考力の芽生えを養う教育をおこなうための教育課程についての研究

≪研究主題≫

幼児が試したり工夫したりしながら，自らの思いを実現する保育の在り方

【研究の要点】

＜主題設定の理由＞

幼児の思考力は，幼児が周囲の環境に主体的に関わり，直接的・具体的な体験を重ねることを通して育まれる。そこで，幼児が主体的に環境に関わる中で出会う様々な問題の解決に向けて，試行錯誤を繰り返したり，友達と考えを出し合ったりして，自らの思いやイメージを実現し，満足感や充実感，達成感を得られるような経験を積み重ねられるような環境の構成や援助の在り方について考えることにした。

＜研究の重点＞

思考力の芽生えを養うための環境の構成や援助の在り方について，「もの」と「人」の視点から追究する。

＜取組の概要＞

実践事例の検討から，幼児の発達の過程に応じて思考力の芽生えを養うための指導の在り方について仮説を立てる。そして，仮説に基づいて保育を実践し，仮説の検証・修正を進め，その成果を教育課程の改善に生かしていく。

＜成果＞

① 年少児は，目にしたものに自分から関わって不思議さや面白さなどを感じたり，見立てたりするなどして遊んでほしい。そこで，幼児が様々なものに見立てられるものと出会わせる。また，幼児が不思議に思ったり，面白さを感じたりする感性に教師が共感することにより，自分からものに一層積極的に関われるようになる。

② 年中児は，自分の思いをもってものと関わり，思いの実現に向けて試したり工夫したりしてほしい。そこで，幼児の遊びから内にある思いを読み取り，その実現に一層近付けるようなものを準備する。ただ，準備する際に，幼児の思いの実現がすぐに可能となるような状態で準備するのではなく，そのものから幼児なりにイメージし，試したり工夫したりしながら関われる余地を残して準備していく。また，徐々に仲間意識も強くなるので，幼児同士で考えを出し合いながら遊びを進められるような環境を整える。

③ 年長児は，これまでの経験から予想を立てて試したり，確かめたりしようとする。また，友達の気付きに刺激されたり，一緒に取り組んだりすることにより，自分では気付かなかった方法（遊び方）を体験する楽しさを実感してほしい。そこで，多くの友達と関わる中で，一人一人がよいと思う考えを出し合いながら遊びを進めたり，共通の目的の下に遊びを展開したりできるような環境を整える。

＜課 題＞

① 年少から年長に至るまでの思考力の芽生えの発達の過程・道筋について，明らかにしていく必要がある。

② 各月の指導計画の改善は図れたので，①を解決することにより，思考力の芽生えの発達を軸に教育課程を見直していくようにする必要がある。

③ 幼児一人一人が抱える課題の解決に向けた保育と，思考力の芽生えを養う保育との整合性を図れるような保育の展開について考える必要がある。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

本園は，附属学校として，学部と連携しながら研究を進めている。また，年２回の公開研究会の実施，視察の積極的な受け入れなどを通して，主に県内の幼児教育の充実に向けて先進的な役割を果たしている。

幼児は，周囲の環境に主体的に関わりながら，自分の思いやイメージをもって遊んでいる。そして，その中で生じる問題の解決に向けて，幼児なりに考え，工夫している。しかし，思うようにいかないと途中であきらめてしまい，自らの思いが実現できない姿も見られる。

2　学校の概要　（平成22年4月5日現在）

		３歳児	４歳児	５歳児	計
学級数		1	2	2	5
園児数	男	14	28	34	76
	女	14	28	34	76
	計	28	56	68	152

教員数　11名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

1　研究主題等

(1) 研究主題

幼児が試したり工夫したりしながら，
自らの思いを実現する保育の在り方

(2) 研究主題設定の理由

中央教育審議会の答申において，「幼児が友達と共に遊ぶ中で，好奇心や探究心を育て，思考力の芽生えを培うことが大切であることを考慮し，幼児一人一人の興味や関心を生かしつつ，友達と共に試したり，工夫したりして，周囲の環境に対する新たな視点に気付いたり，新しい考えが生まれたりする」ようにすることの重要性が指摘されている。また，知識や技能の確実な習得と同時に，思考力や判断力，表現力等を育成することの大切さも述べられている。

そこで，本園幼児の実態を踏まえ，幼児が環境に主体的に関わって遊ぶ中で出会う様々な問題や困難を伴う状況の解決に向けて，試行錯誤したり友達と考えを出し合ったりしながらねばり強く取り組み，自らの思いやイメージを実現して満足感や充実感，達成感を得られるようにしたいと考えた。

そして，幼児がこのような経験を十分に積むことができるような環境の構成や援助の在り方について考えることを通して，日々の保育の工夫・改善を図るとともに，教育課程の改善につなげていきたいと考えた。

(3) ２年間の主な取組

平成21年度	○幼児の思考力のとらえ方について検討する。 ○実践事例の検討。 ○先進園（金沢大学附属幼稚園）の視察。 ○思考力の芽生えを養うための環境の構成や援助の在り方について，「ものとの関わり」と「人との関わり」に着目して仮説を立てる。
平成22年度	○思考力の芽生えを養うための環境の構成や援助の在り方について，「ものとの関わり」と「人との関わり」に着目して立てた仮説を基に実践を行う。 ○実践事例の検討による仮説の検証と修正。 ○先進園（岡山大学教育学部附属幼稚園）の視察。 ○研究成果の教育課程への反映。

2　教育課程の編成

教育目標	健康でいきいきした子どもに育てる 1　身近な環境に興味や関心をもち，自ら関わっていく子どもに育てる 2　豊かに感じとり，考えたり表現したりする子どもに育てる 3　友達に関心や親しみの気持ちをもち，友達と楽しく遊ぶ子どもに育てる

＜３歳児（３年保育）＞　※下線部は，今年度事例検討を通して見直し，修正した箇所です。

	ね ら い	内　　容
入園～7月頃	○幼稚園という場に対する安心感，担任・副担任への安心感や親しみの気持ちをもつようになる。 ○幼稚園で遊ぶことや過ごすことに興味をもち，喜んで登園するようになる。 ○幼稚園には友達がいることに気付くようになる。 ○先生に援助してもらいながら，持ち物の始末・排泄・衣服の着脱などを自分でしようとするようになる。	○家の人と離れ，ベランダ近くで出迎える先生のところに登園する。 ○先生や友達と，あるいは一人で，安心して保育室や園庭で遊ぶ。 ○近くの友達と同じ遊びをしたり，時には遊具を取り合うなどしたりしながら，友達がいることに気付いて，近くであるいは一緒に過ごす楽しさを感じる。 ○持ち物の始末や排泄・衣服の着脱・弁当の片付けなど先生に手伝ってもらいながらする中で，自分でしたことに喜びを感じたり，することへ気持ちを向けたりする。 ○弁当を食べることを楽しみに思い，みんなで一緒に食事をする。 ○先生に絵本や紙芝居を読んでもらい，静かなひとときを過ごす。 ○家の人と一緒に幼稚園の近くの公園に行き，親子であるいはみんなと遊んだり，一緒におやつを食べたりして楽しく過ごす。
8月頃～10月中旬頃	○喜んで登園し，安定した気分で過ごすようになる。 ○幼稚園で遊ぶことに興味をもったり，戸外で伸び伸びと遊ぶことを楽しんだりするようになる。 ○周囲のものや事象に興味をもち，不思議さや面白さを感じるようになる。 ○目にしたものを何かに見立てるようになる。 ○幼稚園には友達がいるということに気付くようになる。 ○先生に少し援助してもらいながら，持ち物の始末・排泄・衣服の着脱・片付けなど自分でできることは自分でしようとするようになる。	○家の人と離れ，一人であるいは友達とベランダ近くの先生の所まで喜んで登園する。 ○先生や友達のあいさつに言葉や身振りで嬉しそうに応じる。 ○一人であるいは先生や友達と保育室や園庭で楽しく遊ぶ。 ○周囲のものや事象に興味をもつ。 ○目にしたものを自分なりに見立てたり，面白さを先生や友達に伝えたりする。 ○持ち物の始末や排泄，衣服の着脱，遊んだ後の片付けなど，自分でできるところを自分でしようとする。 ○先生が読む絵本や紙芝居を見たり聞いたり，知っている歌を歌ったり，体を動かしたりすることを楽しむ。 ○運動会を楽しみにし，家の人の競技を応援したり走ったり踊ったりすることに興味をもって参加する。
10月下旬頃～12月頃	○一人であるいは先生と一緒に，好きな遊びをするようになる。 ○喜んで戸外で過ごしたり，伸び伸びと体を動かしたりするようになる。 ○目にしたものを何かに見立て，それを遊びに取り入れるようになる。 ○友達と遊ぶことに興味をもち，安全に楽しく遊ぶようになる。 ○持ち物の始末・排泄・手洗いやうがい・食事の準備や片付け・身支度などを自分でしようとするようになる。	○喜んで登園し，ベランダで出迎える先生と朝のあいさつをする。 ○一人であるいは友達や先生と一緒に，保育室や園庭で好きな遊びをする。 ○自分で発見したことを遊びに取り入れたり,感じたままの言葉で先生や友達に伝えたりする。 ○友達と同じ物を作ったり作ってもらったりして一緒に遊んだり，役割を決めてごっこをしたり，話をしながら遊んだりする。 ○トラブルの際，少しずつ友達にも思いがあることに，先生に援助してもらいながら気付く。 ○持ち物の始末や排泄，食事の準備や片付け，身支度などを自分でしようとしたり，友達や先生の片付けを手伝ったりする。 ○先生が読む絵本や紙芝居，歌を歌うことなどをみんなで一緒に楽しむ。 ○家の人と一緒に遠足に行き，一緒に遊んだり，弁当を食べたり，自然に触れたりする。 ○やきいも，もちつき，あずさの会など季節の行事に興味をもって参加し，楽しいひとときを過ごす。
1月頃～3月頃	○好きな遊びを見付けて遊ぶようになる ○いろいろな遊びに興味をもち，幼稚園で楽しく過ごすようになる。 ○友達と遊ぶことを楽しみ，友達に親しみの気持ちをもつようになる。 ○遊びや生活に必要な約束があることを知るようになる。 ○自分でできることを自分でするようになる。	○一人であるいは友達と誘い合わせて保育室まで喜んで登園する。 ○好きな遊びを見付けて保育室や園庭で，一人であるいは友達や先生と一緒に遊ぶ。 ○友達と話をしたり，役割や遊び方についてやりとりをしたりしながら遊ぶ。 ○友達と関わって遊んだり生活をしたりしながら，友達の嬉しい気持ちや嫌な気持ちに徐々に気付く。 ○遊びや生活の中での危険な行為や周りに迷惑をかける言動について知り，みんなで生活していくために約束があることを知る。 ○持ち物の始末,排泄,衣服の着脱,食事の準備,片付けなど自分でできることを自分でする。 ○げきをみる日，まめまきなど幼稚園全体でする行事に興味をもって参加する。 ○年中になる話を聞いたり，年中の保育室や年中になると使用できる遊具を見たり使ったりして進級への期待をもつ。

＜４歳児（３年，２年保育混合）＞ ※下線部は，今年度事例検討を通して見直し，修正した箇所です。

	ね ら い	内　　容
入園・進級～5月下旬頃	○幼稚園という場に安心感をもつようになる。（２年保育児） ○新しい環境に興味をもち，安心して遊ぶようになる。（３年保育児 ○担任・副担任の先生に親しみの気持ちをもち，近くにいる友達と遊ぶことに興味をもつようになる。 ○幼稚園で遊ぶことに興味をもつようになる。 ○自分でできることを自分でしようとするようになる。 ○園生活に必要なことを知り，自分でしようとする気持ちをもつようになる。	○送ってきた家の人と離れ，幼稚園で安定して過ごす。 ○自分の好きな遊びや興味をもった遊びをして過ごす。 ○先生に親しみの気持ちをもって近付いたり，近くの友達に興味を示したりして遊ぶ。（２年保育児） ○先生と触れ合ったり，友達と触れ合ったりして安定した気分で遊ぶ。（３年保育児） ○気の合う友達を見つけて，一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 ○先生のする絵本や紙芝居などを見たり聞いたりすることに興味をもつ。 ○先生や友達と一緒におやつや弁当を楽しく食べる。 ○先生に教えてもらったり，友達がするのを見たりして，幼稚園生活に必要なことを自分でしようという気持ちをもつ。 ○先生に教えてもらいながら幼稚園の生活に必要な約束を知る。（主に２年保育児） ○こどもの日や母の日など，この時期の行事に興味をもつ。
6月上旬頃～9月下旬頃	○一人であるいは友達と一緒に好きな遊びを見付けて遊ぶようになる ○いろいろな遊びに興味をもち，幼稚園で楽しく過ごすようになる。 ○自分の思いやイメージを実現しようと試したり工夫したりするようになる。 ○先生や友達に親しんだり，興味をもったりするようになる。 ○自分でできることを自分でするようになる。 ○幼稚園での安全な生活に関心をもつようになる。	○門の所で家の人と離れ，笑顔で登園する。 ○一人で好きな遊びを始めたり，気の合う友達が登園するのを待って一緒に遊んだりする。 ○いろいろな遊びに興味をもち，一人であるいは先生や友達と楽しく遊ぶ。 ○身近な友達に親しみの気持ちをもち，一緒にあるいは近くで遊びながら，友達と遊ぶ楽しさに気付く。 ○遊びの中で，自分なりに試したり工夫したりすることを楽しむ。 ○友達と一緒に，おやつや弁当を楽しく食べる。 ○先生や友達と遊んだ後の片付けをする。 ○自分で気付いて持ち物の始末や着替え，手洗い，衣服の調節，弁当の準備や片付けをする。 ○おやつや弁当の準備を手伝い，手伝いの順番や当番が必要であることに気付く。 ○先生に教えてもらったり友達がするのを見たりして，安全な生活に必要な約束を知り，気を付けようとする気持ちをもつ。
10月上旬頃～12月頃	○好きな遊びを伸び伸びと楽しむようになる。 ○友達のいろいろな考えに気付いたり，これまでの自分の経験を基にしたりしながら試したり工夫したりすることを楽しむようになる。 ○いろいろな遊びや自然，行事などに興味や関心をもち，関わるようになる。 ○友達のいろいろな思いに気付いたり，同じような思いをもったりして一緒に遊ぶことを楽しむようになる。 ○自分でできることを自分でするようになる。 ○健康で安全な生活に関心をもち，幼稚園での生活に必要な約束を守ろうとするようになる。	○好きな遊びの中で，安定した気分で自分を出して過ごす。 ○いろいろな遊びに興味をもち，友達と一緒に遊びを楽しむ。 ○友達のいろいろな考えや，これまでの自分の経験を遊びに生かしたりする。 ○自然に興味や関心をもったり，触れたりしながら楽しんで遊ぶ。 ○この時期のいろいろな行事に興味や関心をもって参加したり，経験したことや楽しみに思うことを遊びに取り入れて楽しんだりする。 ○学級全体で絵本などを見てイメージを膨らませたり，自分の思いを身振りや言葉，絵，歌などで楽しみながら表現したりする。 ○友達に自分の思いや考えを伝えたり，友達の思いや考えを受け入れたりして遊ぶ。 ○友達と遊んだ後の片付けをし，おやつや弁当を楽しみに思い，準備したり当番の仕事をしたりする。 ○冬の生活や健康について話し合い，必要に気付いて手洗いやうがいをする。 ○座席のグループや横並びの順のまとまりなどで集まったり，並んだり，一緒に行動したりする。 ○先生に促されて危険な遊び方に気付いたり，けがをしないように気を付けて遊ぼうとしたりする。
1月頃～3月頃	○好きな遊びに熱中するようになる。 ○様々な遊びや行事を通して，いろいろな経験を広めるようになる。 ○経験したことや感じたこと，考えたことを喜んで表現するようになる。 ○いろいろな友達に親しみの気持ちをもち，一緒に遊ぶようになる。 ○自分でできることは自分でするようになる。 ○健康で安全な生活に必要な約束や友達との遊びに必要なきまりを守るようになる。	○自分の思いや考えを友達に伝えたり，友達にも思いや考えがあることに気付いたりして遊ぶ。 ○好きな遊びにじっくりと取り組む。 ○友達と話し合って簡単なきまりを作ったり，それを守ったりして遊ぶ。 ○この時期ならでは遊びを楽しんだり，喜びや期待をもって行事に参加したりする。 ○自分の考えたことや感じたことを身振りや言葉・絵・歌などで楽しみながら表現したり，学級全体で先生に読んでもらう絵本などの筋を理解し，喜んで聞いたりする。 ○学級のいろいろな友達と話をしたり，一緒に遊んだりする。 ○ルールを守りながら，伝承遊びなど大人数での遊びを楽しむ。 ○年長になる話を聞き，進級の喜びを感じながら年長組の保育室を見に行ったり，新入園児を迎える準備をしたり，年長児の修了を祝ったりする。 ○自分でできることに自分で気付いて自信をもって取り組む。 ○危険なことに気付いたり，けがをしないように気を付けたり,約束を思い出して守ったりする。

＜５歳児（３年，２年保育混合）＞ ※下線部は，今年度事例検討を通して見直し，修正した箇所です。

	ね ら い	内　　容
進級～5月上旬頃	○担任の先生や学級の友達に親しみをもち，新しい環境に関わって，好奇心や探究心をもつようになる。 ○友達と一緒に好きな遊びを楽しむようになる。 ○身近な春の自然やこの時期の行事に親しんだり，興味や関心をもったりするようになる。 ○年長になった喜びや自覚をもち，行動するようになる。 ○自分で気付いてできることをしたり，生活に必要なきまりを守ったりするようになる。	○新しい環境に関わって，伸び伸びと遊ぶ。 ○気の合う友達と一緒に安定した気分で好きな遊びを楽しむ。 ○身近な動植物に関心をもって触れたり，種蒔きや苗植えをしたり世話をしたりする。 ○いろいろな行事に期待や関心をもち，遊びの中に取り入れたり，それに関わる活動を楽しみながら行ったりする。 ○年中や年少の友達を入園式で迎えたり，登園時に門から保育室まで付き添ったり，一緒に遊んだりする。 ○年長になると使える場所や遊具の安全な使い方やきまりを知ったり，先生や友達と考えたりして守って遊ぶ。 ○新しい生活の場でも，今までの生活の仕方を元に考えながら，できることは自分でする。
5月中旬頃～6月頃	○自分のイメージを実現しようと，集中して取り組んだり，物事を追究しようとしたりするようになる。 ○自分の思ったことを友達に伝えながら，一緒に遊ぶようになる。 ○身近な自然に関わったり，季節の変化を感じとったりするようになる。 ○この時期の行事に関わる活動に興味をもつようになる。 ○気候や遊びに合わせた生活の仕方に気付いて行動するようになる。	○気の合う友達及び興味や目的の一致する友達との遊びを楽しむ。 ○水や砂に触れたり，固定遊具などを使ったりし，体を思い切り動かして戸外で遊ぶことを楽しむ。 ○自分のイメージを実現しようと，工夫したり試したりしながら遊ぶ。 ○友達に自分の思いや考え，気持ちなどを言葉で伝えながら遊ぶ。 ○友達の考えに刺激を受け，自分の遊びに取り入れる。 ○身近な動植物に触れたり，世話をしたり，特徴などに関心をもったりする。 ○母や父への親しみの気持ちを深め，楽しみながら贈り物を作ったり，自分なりの思いを言葉に表したりして，気持ちを伝える。 ○遊びに合った身仕度や脱いだ服の始末などを自分でする。 ○雨天の日の室内での過ごし方に気付く。
7月頃～9月中旬頃	○遊びの中で生じた問題や課題に対して，見通しや予測をつけて考えたり，解決しようとしたりして，充実感を味わうようになる。 ○自分の思ったことを友達に伝えたり，友達の言葉に耳を傾けたりして，一緒に遊ぶようになる。 ○自然に触れ，好きな遊びを楽しむ中で，よく見たり，考えたり，試したりするようになる。 ○この時期の行事に興味をもち，楽しく関わるようになる。 ○生活に必要なことを自分で考えて行動するようになる。	○同じ興味や目的をもった友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○遊びの中で自分の思っていることを相手に言葉で伝え，相手の話も聞く。 ○友達の言動をきっかけに自分なりに新たな発想をし，その発想を自力で実現しようと試したり工夫したりする。 ○自分たちなりのルールを考え合いながら，集団での遊びを楽しむ。 ○プールや砂場で，水や砂の感触を十分に味わいながら，様々な事象に気付く。 ○七夕・十五夜・敬老の日・運動会などに興味をもち，遊びの中に取り入れたり，それに関わる活動を喜んでする。 ○気候に合わせて，自分で身仕度や遊びの場を整えたり準備したりする。 ○幼稚園生活に必要なきまりを思い出して行動する。 ○自分で気付いて，使った物を片付けたり，整理したりして場を整えようとする。
9月下旬頃～12月頃	○いろいろな遊びをする中で，充実感をもつようになる。 ○友達と話し合ったり協力したりして，遊びを進めるようになる。 ○共通の課題や問題の解決に向かって見通しや予測を立て，友達と力を合わせながら工夫して遊ぶようになる。 ○身近な自然や社会の事象，この時期の行事に興味をもって意欲的に関わり，楽しむようになる。 ○次にすることの見通しをもって，行動するようになる。	○同じ興味や目的をもった友達との遊びの中で生じた課題や問題を，試したり考えたりして自分たちで解決しながら，継続して楽しむ。 ○友達と遊びを楽しむ中で，新しい自分の考えを試したり，予想したことを確かめたりして，そのことを友達と話題にしたりする。 ○いろいろな友達と思いを伝え合いながら一緒に遊ぶ。 ○木の実，紅葉，秋の花や虫，畑の作物，園外保育で出会う様々なものなどに触れて興味をもって関わったり，それらを遊びに取り入れたりする。 ○就学時健診を受けたことを話し合ったり，小学校探検をしたりして就学に期待をもったり，自分の成長を感じたりする。 ○運動会，遠足，りすの会，サツマイモや大根の収穫，やきいも，もちつき，あずさの会などに期待感や年長児としての意識や自覚をもち，積極的に参加して楽しむ。 ○次にすることを考え，今どうしたらよいのかに自分で気付いたり，友達と知らせ合ったりしながら生活する。 ○友達と協力して，遊びに使った物を片付けたり，生活の場を整えたりする。
1月頃～3月頃	○いろいろな遊びを進んでする中で，充実感をもつようになる。 ○共通の目的に向かって，友達と話し合ったり，協力したりするようになる。 ○身の回りの事象に興味をもって意欲的に関わり，自分なりに工夫したり，考えたり表現したりして遊ぶことを楽しむようになる。 ○自主的に行動しながら，生活するようになる。 ○修了を意識しながら，幼稚園生活を楽しむようになる。	○自分の，又は，友達と共通の目的や課題に，工夫したり試したり協力したりしながら取り組み，自分たちの力で解決して遊びや活動を楽しむ。 ○友達と一緒に目的を実現する楽しさや翌日の遊びの目的を共通にして遊びを切り上げる楽しさを感じる。 ○友達と協力しながら年長の会を準備したり行なったりする中で，自分の力を発揮したり，友達のよさを認めたりする。 ○今まで関わりの少なかった友達と，こだわりなく遊んだり思ったことを話し合ったりする楽しさを味わう。 ○冬の自然に関わり，注意してみたり，工夫したり試したりしながら遊びに取り入れたりするとともに，冬から春にかけての身近な動植物の変化や自然現象に気付き，季節の変化を知る。 ○げきをみる日，まめまき，年長の会，ひなまつりに関わる活動，学級全体での活動などを通して，言葉や音楽・数量・図形・文字を用いた表現，行事の意味などに関心をもったり，自分たちの遊びや活動に取り入れたりする。 ○修了・就学に向けての活動に，期待や自覚をもって参加する。 ○自分なりに見通しをもち，状況を考えながら生活する。

3　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 思考力につながる姿とその姿を目指すための環境の構成や援助の在り方について

① 年少児

事例１：「不思議」　３歳児１０月
昼食時，A児が天井で何かが動いているのを発見する。それは，メダカのいる睡蓮鉢の水に日光が反射して天井に映っていたものだった。教師は，それが何か答えるのではなく，この不思議な体験を大切にし，幼児から考えが出るのを待った。幼児数名が「やきいもみたい」「トイレみたい」「うみみたい」「ボクシングみたい」「くものすみたい」「もやもやしてるね」「へびみたい」と口々に言った。

教師が意図的，計画的な環境の構成により不思議な体験をさせることは，かなり難しい。保育の中で，幼児の言葉や表情，動きを敏感にキャッチして，幼児が不思議に思うことをとらえていく必要がある。しかし，不思議なものに出会わなくても，事例のように，様々なものに見立てられる事象・ものと出会うことが，３歳児の思考力を育てるのには有効であると考えられる。したがって，教師は，幼児が見立てをして遊びに活用できるものを意図的，計画的に準備することが大切である。

② 年中児

事例２：「できないなぁ」　４歳児１１月
A児は船流しの競走をしようと思い，レーンを２つつくろうとしていた。１つは長い樋を斜めに立てかけできたが，もう一本長い樋がなかったためA児は，もう１つのレーンができずに困っていた。教師が，短い樋があることをA児に伝えると，短い樋２本をガムテープで留めて長い樋をつくった。また，教師がいろいろな船を製作できるように様々な材料（梱包用発砲スチロール・スポンジ・カップ・空き容器）を準備しておくと，幼児はそれらをいろいろな形に切ったり，それを組み合わせたりしながら自分のイメージに合う船をつくって競走を楽しんだ。

幼児の思いの実現に向け，用具や素材などを十分に出しておくことは重要であるが，別の素材等を工夫して足りないところを補い，思いやイメージを実現できる場合は，あえてものが不足するような状況をつくることも，思考力を養うことにつながるだろう。

事例３：「チームにする？」　４歳児７月
教師がA児をかけっこに誘ったことから，A児たちはかけっこをすることになった。A児とB児はコーンを置いてコースをつくった。B児が赤いバトンを持ってきたので，教師が「もう１つバトンを持ってきてチームにする？」と聞くと，A児はすぐに取りに行き，「黄組だから黄色を持ってきたよ」と差し出した。その後A児は「赤チームになる人？黄色チームになる人」とみんなに聞いたり，B児がチームの人数を同じになるように提案したりして遊び始めた。しばらくすると，コーンの位置を相談して変え，走る姿が見られた。

教師がかけっこに誘い，幼児がコーンを置いたことからリレーが始まった。幼児は自分の考えを出しながらチーム分けをしたり，コースを変えたりして遊びを進めている。少しずつ仲間意識が芽生えてくる時期に，ルールをつくるなど，幼児が考えを出し合って遊びを進められるような環境をつくることが，思考力を養うことにつながるであろう。

③ 年長児

事例４：「乗っていいよ」　５歳児９月
A児がロープを引き，B児がタイヤに乗り，C児がコロを置くという役割で遊んでいた。 A児は，自分でロープを引きながらもC児がしているコロを置くことをときどき手伝う。そして，ロープを引いてタイヤを進める。A児はコロを置くときに，シートの縁にコロ

の端をそろえて置くようにしている。

その後，Ａ児は，Ｂ児よりＣ児の方が小さいということで，タイヤに乗る人をＢ児からＣ児に代わるように言った。

Ａ児に言われ，Ｂ児が降りてＣ児が乗ることになった。Ｂ児はＡ児と一緒に，丁寧にコロの端をシートの縁にそろえて並べる。コロが並んだところでＣ児がタイヤをコロの上に置く。Ａ児がタイヤを少し引いてみる。Ａ児がＣ児に「乗っていいよ」，Ｂ児に「コロを運んで」と言いながら３人で力を合わせて対岸までタイヤを進めた。そして対岸まで来ると，役割を入れ替えてこの遊びを続けていた。

複数の幼児が関わって，遊びが成立するような遊具を提供したり，状況をつくったりすることは，それぞれの幼児が遊びをより楽しくしようという共通の目的を見いだしたり，幼児同士の協力の必要性を生じさせたり，幼児なりに思考を働かせたりすることにつながる。その際，どのような目的を見いだし得るのか，どこまでなら幼児自身の力で工夫し新しい考え方を生みだすことができのるか，などをしっかりと見極めるとともに，遊具の種類や数，提示する状態などを工夫することが，幼児の思考力を養っていく上では大切であろう。また，幼児一人一人の性格や考え方の特徴などを踏まえて，遊びに使う用具や素材，教師の声の掛け方などを工夫していく必要がある。

事例５：「流れないな」　５歳児６月

Ａ児とＢ児は管類を並べて水を流そうと試みたが，つなぎ目から水が漏れてしまう。うまく流せないことが分かると，管をつなぐ順番を変えてみる。しかし，水はうまく流れない。そこへＣ児が来て，管の置き方に高低差がないことを指摘し，水は高い方から低い方へ流れること伝え，並べ方を変えようとする。Ａ児は，変えられることをいやがる様子もなく一緒に取り組む。その後Ｃ児は離れたが，Ａ児は管の順番を替えたり接続部分を工夫したりしていた。

Ａ児は水を流したいという思いを実現させるために友達の考えを受け入れるとともに，その考えを基に試行錯誤している様子が見られた。自分の考えだけで遊びを進めるのではなく，友達の考えに触れ，そのよさに気付いて取り入れることにより，思いの実現に近づけたようである。教師は，友達の考えや働きかけのよさに気付くように援助していくことが大切であろう。

４　研究の成果と課題

２年間の研究の成果と課題は，以下のとおりである。

(1) 成果

思考力の芽生えに関わって育てたい姿，その実現を目指すための環境の構成や援助の在り方について，「もの」と「人」に視点を当てて取り組んできた結果，以下のことが明らかになってきた。

① 年少児には，目にしたものに自分から関わって不思議さや面白さなどを感じる体験を積ませたい。そこで，幼児が様々なものに見立てられるような多様な形や色をしたものなどに出会わせる。また，幼児が不思議に思ったり，面白さを感じたりする感性に教師が共感することにより，自分からものに一層積極的に関われるようになり，思考力を養うことにつながる。その外，友達の存在に気付かせたり，他の幼児の遊びに興味や関心をもたせたりする援助も，考えを広げるために大切にしたい。

② 年中児は，自分の思いをもってものと関わり，その実現に向けて試したり工夫したりしてほしい。そこで，幼児の遊びから思いを読み取り，その実現に一層近付けるよ

うなものを提供する。ただ，提供する際に，幼児の思いの実現がすぐ可能な状態で提供するのではなく，そのものから幼児なりにイメージして試したり工夫したりしながらできるような余地を残して提供していく。

また，徐々に仲間意識も強くなるので，幼児同士で考えを出し合いながら遊びを進められるような環境を整える。

③　年長児は，これまでの経験から予想を立てて試したり確かめたりする，友達から刺激を受けて新しい考えを生みだすなどして遊びを進め，満足感や充実感を味わえるようにしたい。そこで，教師が過去の体験を想起できるような言葉を掛けたり，一人一人がよいと思う考えを出し合いながら遊びを進められたり，共通の目的の下に遊びを展開できたりするような「人」や「もの」の環境を整える必要がある。また，紙や粘土などのように，同じような取組を繰り返しできるような素材を準備することも，思考力を養う上で大切と考える。

(2) 課題

①　年少から年長に至るまでの思考力の芽生えの発達の過程について，明らかにしていく必要がある。

②　各月の指導計画の改善は図れたので，①を解決することにより，思考力の芽生えの発達を軸に教育課程を見直していくようにする必要がある。

③　幼児一人一人が抱える課題の解決に向けた保育と，思考力の芽生えを養う保育との整合性が図れるような保育の展開について考えていく必要がある。